

糖尿病性網膜症について

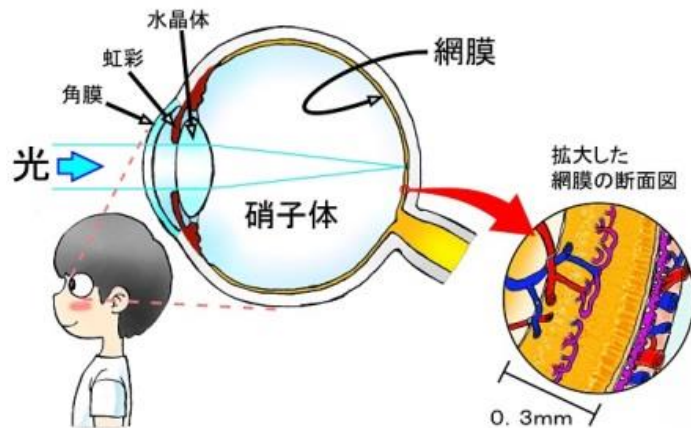
●糖尿病性網膜症とは？

糖尿病の慢性的な合併症のうち、眼への影響の中で最も重要なものが糖尿病性網膜症です。糖尿病を発症後、7~10年ほど血糖のコントロールが出来なかった糖尿病患者の約50%に高い確率で発症します。この病気は一度進行してしまうと、治すことは難しく、失明へと繋がる病気なのです。現在年間で約3000人の人が糖尿病による合併症で失明しており、中途失明の原因の第一位となっております。目をカメラに例えると、レンズに相当するのが水晶体、そしてフィルムが網膜です。網膜は、眼球の一番奥（眼底）にあり、光を感じる細胞で覆われています。この網膜に障害が生ずると、視力は損なわれます。



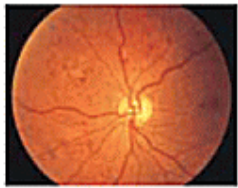
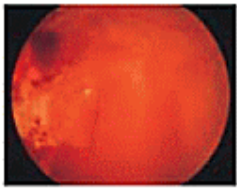
先に述べたように網膜は目で見た映像を実際に読み取る、大変重要な役割をしています。

厚みわずか0.3mmほどですが、毛細血管と視細胞が密集した精密な器官です。

毛細血管が集中しているという事は高血糖による血管の傷害に非常に弱いという事です。血糖コントロールを怠ったり、糖尿病事体を放置したりしていると、網膜の毛細血管が詰まったり壊れたりして網膜自体も傷んでいきます。



更に放置していると、網膜に血液が届かず、網膜が栄養不足、酸素不足で死に始めます。

正常な網膜	単純網膜症	増殖前網膜症	増殖網膜症
			
眼の状態	<ul style="list-style-type: none"> 網膜の毛細血管がもろくなります 点状および斑状出血 毛細血管瘤 硬性白斑(脂肪・蛋白質の沈着) 軟性白斑(血管が詰まってできます) 	<ul style="list-style-type: none"> 軟性白斑が多くみられます 血管が詰まり、酸素欠乏になった部分がみられます 静脈が異常に腫れて、毛細血管の形が不規則になります 	<ul style="list-style-type: none"> 新生血管が硝子体にみられます 硝子体出血 増殖膜の出現 網膜剥離 失明に至ることがあります
自覚症状	なし	なし	<ul style="list-style-type: none"> 視力が極端に低下します 黒いものがちらつきます ものがぶれてみえます

これは眼底に軟性白斑ができます。網膜の中心が壊れない限り見え方に異常を感じにくく、この状態になってもまだ**自覚症状のない方が多い**ようです。

次の段階まで行ってしまうと、死に始めた網膜に栄養と酸素を運ぶために「新生血管」という異常な血管が出来ます。この血管は細くて脆い為、わずかなきっかけで破裂して大きな出血（眼底出血）を起こしてしまいます。眼底出血は失明に直結する大変恐ろしい症状です。また、新生血管は網膜と硝子体をくっつけてしまい、加齢変化で網膜と硝子体が離れる際に網膜剥離を起こす原因にもなります。

網膜の傷害が糖尿病性網膜症の末期といつてよい「増殖網膜症」の段階に進んでいても、病変が網膜の中心部「黄斑」に及ぶか、眼内に大きな出血をして視野に大きな欠けができるまで眼の異常に気づかず、手遅れになる人が多くいます。

●目を守るために・・・

網膜の状態が悪くなってから慌てて治療をしても良い結果は出ません。

網膜を悪くしないこと・・・つまり、

- 糖尿病とわかったら網膜が悪くなる前に血糖コントロールを開始すること
- その後も血糖コントロールをしっかりと行い継続すること
- 自覚症状がなくても定期的に眼の検診を受けること

これらが目を守るために大事になってきます。

（※血糖コントロールを長期間行わず、網膜の状態が非常に悪くなっているところへ急な血糖コントロールを行うと、網膜症を悪化させる場合があります。素人判断、素人治療をせず、病院へ行って医師とよく相談し、医師の指示に従ってください。）

網膜の血管は私たちの体の中で、切開などをせずに直接肉眼で見ることが出来る唯一の血管です。糖尿病における眼底検査では、血管の痛み具合を直接観察することができ、全身の血管の状態を知る手がかりになります。症状が安定していても定期的に診てもらうようにしましょう。

